

# SHOW HEYシネマルーム



## Data

監督: ガイ・リッチー  
出演: ロバート・ダウニー・Jr.  
/ ジュード・ロウ/ レイチェル・マクアダムス/ マーク・ストロング/ エディ・マーサン/ ケリー・ライリー/ ジェームズ・フォックス/ ハンス・マシソン/ ウィリアム・ホープ/ クリーヴ・ラッセル/ ジェラルディン・ジェームズ

## 👁️👁️ みどころ

シャーロック・ホームズは知的でクールな英国紳士とばかり思っていたが、本作にみる肉体派ホームズは？そんな意外なキャラで本作は大ヒットらしいが、そのアクションのスピードについていくのは大変。

他方、本業の推理の冴えはお見事。死から甦るほどの魔力を持つ難敵に何度も苦杯をなめさせられながらも、最後には遂に……。ちなみに、名推理にもTPOが必要だが、それが学べるのはあるシーンから……。

\* \* \* \* \*

## 「肉体派ホームズ」に注目！

私は小学生時代に『シャーロック・ホームズ』の本を夢中になって読んだが、その時のホームズのイメージは知的でクールな英国紳士。ところが本作にみるホームズは、新聞批評で読んでいたとおりの肉体派。映画冒頭に登場する不気味な館の中での盟友ジョン・ワトソン（ジュード・ロウ）と組んだ派手なアクションシーンにビックリするとともに、その後のボクシングの試合で筋骨たくましい大男を見事ノックアウトさせるシーンにもビックリ。

本作でホームズを演ずるロバート・ダウニー・Jr.の最近の主演作は『アイアンマン』（08年）だが、本作では鎧に身を包むことによって力をつけるのではなく、日頃の鍛練だけでアクション能力を身につけている、従来定着していたホームズのイメージ（？）とは全く違う「肉体派ホームズ」を面白く演じている。もっとも、その服装（のダサさ？）やししゃべり方（の downside？）に反発を覚える正統派ホームズファンもいるかもしれないが、それはそれとして、本作ではちょっと変わった肉体派ホームズに注目！

## 強力な敵役は？

本作の敵役は映画冒頭において、ホームズとワトソンによってロンドン警察のレストレード警部（エディ・マーサン）の応援を待つことなく逮捕されてしまう怪しげな黒マントの男ヘンリー・ブラックウッド卿（マーク・ストロング）「ホームズもの」が面白い理由はいろいろあるが、その1つはホームズの知能や推理が際立つような立派な敵役がいるから。ちなみに、大相撲春場所は本日3月24日全勝同士の白鵬と把瑠都が激突し、白鵬が勝利したが、白鵬の好敵手だった横綱朝青龍がいた時の方が大相撲ファンは面白かったはず。なぜなら、観客は常にライバル対決を求めているからだ。

その意味で、本作に登場するホームズの敵ブラックウッド卿はかなりの難敵。冒頭若い女に対して怪しげな儀式を施していたブラックウッド卿があっけなくホームズに逮捕された時は一瞬あっけなく思ったが、それでもブラックウッド卿が自信満々なのは単なるカラ元気？それとも・・・？

その後、死刑になり墓地に埋められたはずのブラックウッド卿が生き返ったり、黒魔術によって世の中を一変させると宣言する姿をみていると、ブラックウッド卿はイエス・キリスト以上の難敵？

## 名推理も使い方によっては・・・

本作のハイライトは、死から甦ったパワーでロンドン市民を恐怖に陥れたうえ、強引にテンプル第4修道会の指導者となり、「明日の正午、世界は終わる」と予告するブラックウッド卿の秘密を類まれなる推理力で見破り、映画終了直前のクライマックスシーンで見事ブラックウッド卿を倒してしまうホームズの活躍ぶり。奇術やマジックは「タネも仕掛けもございません」との口上から始まるが、奇術やマジックはタネと仕掛けのオンパレード。ところが並の人間の推理力ではそのタネや仕掛けを見破れないから、奇術師やマジシャンは贅美的となるわけだ。

それと同じように、映画中盤から後半にかけてのスクリーン上でみる、英国の首席裁判官で実はテンプル第4修道会長であるトマス・ロザラム卿（ジェームズ・フォックス）の溺死シーンやブラックウッド卿を指導者とすることに反対したスタンディッシュアメリカ大使（ウィリアム・ホープ）が拳銃でブラックウッド卿を撃った途端自分が炎に包まれるシーンなどを見ると、ブラックウッド卿のパワーは強大で人々を恐れさせるものだ。しかし、類まれなる推理力をもつホームズは、何度もブラックウッド卿によって苦杯をなめさせられながらもその中から何らかの教訓をひき出し、ついには全面的にブラックウッド卿の魔力の仕掛けを見破ることに。こりゃ、さすがに大した推理力だ。

もっとも、恋人同様（？）の盟友ワトソンが家庭教師のメアリー（ケリー・ライリー）と結婚することになると、ホームズは妙な嫉妬心が湧いたらしい。そのため、はじめてメ

アリーを紹介された食事の席でホームズはあれこれとメアリーの人となりや推理したうえ、メアリーの指に指輪の跡があると指摘し、メアリーにはかつて婚約者がいたと断定したから大変。ホームズはメアリーからグラスに入ったワインをぶっかけられ、楽しいはずの食事はメチャメチャに。やはり推理力も使い方によっては嫌われるから、名推理の使い方にはTPOが大切だ。

## ホームズの理想の女性は？

最近『フィリップ、きみを愛してる！』（09年）や『霜花店（サンファジウム） 運命、その愛』（08年）という同性愛の名作を観たためか、私も男同士の同性愛に抵抗感が少なくなってきた（？）が、そんな目でみると長年同居生活を送ってきたホームズとワトソンはひょっとして・・・？映画の中ではそんな気配は全くないが、メアリーと結婚するワトソンにホームズが末練タラタラの姿勢を示しているのをみると、何となく勘ぐりたくなるのが人情というものだ。

もっとも、そんなホームズにも理想の女性がいらしいからひと安心。とはいっても、ホームズほどの文武両道の達人で、かつ「変わりモノ」ともなれば、理想の女性のタイプもやはり変わっているのでは？そんな風に私は推理したが、それがズバリ大当たり！ホームズの理想の女性は、元オペラ歌手のアメリカ人で、世界中の秘宝を狙って各地に出没する犯罪者であり、かつてホームズの捜査を2度振り切ったという女性アイリーン・アドラー（レイチェル・マクアダムス）らしいから、私は「なるほど」と妙に納得。つまり、ホームズにとっては自分より下の女性には興味がなく、自分を超える女性にしか興味が無いわけだ。

そんな謎めいた女性アイリーンがホームズの部屋に飛び込んできたうえ、失踪した男を捜してほしいという依頼を受けたからホームズはウハウハ。ところがアイリーンをしてホームズにそんな依頼をさせたのは、アイリーンも恐れる謎の教授モリアーティだったから話はややこしい。本作はホームズ・ワトソン連合軍VSブラックウッド卿の対決がメインストーリーだが、さてそこにモリアーティ教授はいかなる形で介入を？それはあなたの観てのお楽しみだが、私にはこの部分はカットしても良かったのではという思いがある。さてあなたは？

2010（平成22）年3月24日記